研究主題 新学習指導要領に基づく指導方法の研究と国語科教員の資質向上 ~ 研究授業・研究協議会・講演会等による教材・指導法の研究と開発~

I 本研究会(都国研)の概要

本研究会は東京都内の公立私立の高等学校・中等教育学校・高等学校附属中学校の国語科教員並びに国語科教育関係者のための研究団体である。全国の国語教育研究会の中でも主要な役割を果たしており、60年以上にわたって日本の国語教育に関わってきた研究会である。常に時代を先読みし、次の時代に必要な国語の力を育成するための教材研究・指導法研究並びに国語科教員の研修を行っている。

Ⅱ 研究の目的

新学習指導要領では、特に国語科において大きな改編が行われ、各科目の内容と取扱いに大きな変更があった。各校の国語科の教員はともすれば手探りで指導計画を練ることになる。

そこで本研究会では対面での研究授業・研究協議会を本格的に再開させ、新学習指導要領に基づく実際の授業・評価をどのように行ったらよいのか、現場の教員の手助けとなるような機会の提供を行うことを主な目的とした。

Ⅲ 研究の方法 (講演会)

5月27日(土)総会での講演会(指導法) 「共通テストと高校での学習について」 講師 代々木ゼミナール 船口 明 氏

現代文問題へのアプローチ法を、氏が担当した生徒たちの実例を挙げながら解説。悩める教員に寄り添う、心温まる講演だった。

指導法も大切だが、生徒をよく観察し、どこにつまずいている のかに気が付くことの大切さを説いていた。

Ⅲ 研究の方法(研究集会)

【夏季研究集会】

8月1日 (火)

会場 都立小金井北高等学校 内容「高等学校国語科評論教材 とメディア・リテラシー」 講師 東京学芸大学大学院 教育学研究科

准教授 中村 純子 氏

【冬季研究集会】

12月27日(水)

会場 都立小金井北高等学校 内容「批評理論は文学教育に貢献できるのか?」

講師 立教大学文学部長 文学科日本文学専修 教授 金子 明雄 氏

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校国語教育研究会】

Ⅲ 研究の方法(研究授業)

【研究授業①】

6月15日(木)

会 場 都立調布北高等学校

科目名 「古典B」(高校3年)

単元名 問題演習(漢文)

授業者 都立調布北高等学校 主幹教諭 床 篤志

【研究授業②】

9月26日 (火)

会 場 都立西高等学校

科目名 「現代の国語」(高校1年)

単元名 問題演習(現代文)

授業名 東大の入試問題を「作る」

~作問者の視点に立つことで本文を構造的に把握する力を高める~

授業者 都立西高等学校 教諭 鈴木 良幸

【研究授業③】

10月31日(火)

会 場 都立三鷹中等教育学校

科目名 「言語文化」(高校1年)

単元名 歌物語『伊勢物語』

授業者 都立三鷹中等教育学校 教諭 田島 有希

Ⅳ 研究の成果と課題

本研究会が長年積み上げてきた研究と実践の場所づくりが今年度 も機能した。集会形式での講演会による知識吸収、研究授業での指 導法の磨き上げ、研究協議会での相互研鑽、学習指導要領に基づく 指導法と評価の研究、懇談の場での自由討論等、複数の研修機会の 提供により、東京の国語科教員の研鑽と指導力向上に資するところ 大であった。

今年度は全国高等学校国語教育研究連合会(全国連)の開催県が 山梨・東京であった。大会中の文部科学省初等中等教育局視学官か らの記念講演により、新学習指導要領に基づく指導と評価について あらためて確認することができた。また、都内12校で実施した研 究授業は、全国から来場した教員も参加して盛況となり、東京の教 員にとって大きな励みとなった。

団体名		東京都高等学校教育研究会		
	所属	都立保谷高等学校		
代表者	職 氏名	校長 平林 正男	3	
	連絡先	042-422-3223		
所属		都立松が谷高等学	校	
事務局	職 氏名	副校長 加藤 和宏		
	連絡先	042-676-1231		
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		http://www.kokugo.gr.jp/to		
		-kokugo-kenkyu.html		
			面的物質	

研究主題 「地理総合」「地理探究」の指導と評価 ~新科目の実践と教材開発、評価規準の共有~

I 団体の概要

東京都地理教育研究会は、都立高校・都立中等教育 学校等で地理を担当する教員の団体である。主な活動 として、年3回の授業研究と年2回の巡検、GIS研究 協議会を毎年、実施している。コロナ禍ではさまざま な活動が実施できなかったため、オンラインでの開催 を続けてきた。昨年度より再び、集会を再開してお り、授業力の向上や教材の研究、共有化を目指した活 動を継続している。

全国地理教育研究会と連携、全国大会の企画・運営等の事務部門を担当している。令和5年度は全国大会を東京主催で7月に開催した。大会テーマ「持続可能な地域づくりと私たち」とし、1日目はオンラインで開催、2日目には大塚にある茗渓会館での会場実施となった。2日目の午後は4年ぶりとなる巡検を実施し、浅草橋、両国周辺における震災遺構を訪ねた。

Teams 上に都地研チームを作成しており、授業で使える統計資料や各種ファイルを共有するなど、会員間での情報交換や教材、資料の共有化を進めている。

Ⅱ 研究の目的

令和4年度より新学習指導要領が実施され、「地理総合」に加えて、新科目「地理探究」が今年度よりスタートした。「知識理解」から「知識活用、課題・解決型」の学習への構築に向けて、地理総合で習得する「地図とGISの活用」「国際理解と国際協力」「防災と持続可能な社会の構築」のさらなる充実、さらに地理探究の学習に向けての実践的な思考、技能の指導法、評価の構築を目指す。

Ⅲ 研究の方法

(1)授業研究の活用

生徒の主体的な活動を促す授業の構築と、活用しやすい教材と実践を研究する。

(2)講演の活用

新しい話題や社会の動向を提供していただき、 教材作成、授業づくりに活かす。

(3) 巡検を活かしての教材づくり まちづくりや防災の観点から、新しい教材開発 につながるような現地研究を行う。

Ⅳ 研究の内容

- (1) 今年度の授業研究は、若手教員の授業2回と中学校の授業見学を行った。高校の授業では、生徒同士の対話による思考の展開や、地元社会に特化させた教材を提供して考察させるなど、実践的な取り組みが見られた。
- (2)教職を目指す学生に地理学を担当する大学教員を講師に招いた。中学校の教科書との比較を通して、改めて高校地理科目の内容と、段階的な理解、習得すべき知識技能の階層性を確認できた。
- (3) まちづくりをテーマに赤羽巡検を実施した。 荒川知水資料館で、来年導水 100 年を迎える荒 川放水路を学んで都市と防災を、今秋オープンし た UR まちとくらしのミュージアムで、高度経済 成長期以来の住宅供給の在り方と課題を学んだ。

巡検で訪れた UR まちとくらしのミュージアムに移設されたスターハウスと、建物内に復元されている同潤会アパートメントの室内



V 研究の成果と課題

今年度は、都地研の企画において若手教員の参加が特に目立った。地理教員の新規採用は多いものの、地理教員が校内にいないため、研修機会を求めている声が多くあがり、都地研の役割を再認識した。地理総合の授業では、生徒が情報を収集し、多面的多角的に分析してアウトプットまでさせることが大切で、教員が教えるのではなく、生徒自らが試行する内容と姿勢を評価することが理想であろう。地理探究は、すべての学校で開かれる科目ではないが、大学入試への対応と、探究的な学習を展開するのに必要な授業時数、教授内容の深度など、新しい科目を構築するために検討すべき課題が残された。

団体名		東京都地理教育研究領	소	
/r. +	所属	東京都立王子総合高等学校		
代表 者	職 氏名	校長 櫛野 治和		
自	連絡先	03-3576-0602		
古功	所属	東京都立青山高等学校		
事務局	職 氏名	主任教諭 白川 和彦		
问	連絡先	03-3404-7801		
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		https://tokyogis.moo.jp/index.html		

研究主題 新たな学習指導要領の実施に向けた、科目間相互の連携と史・資料や図版等を活用した 授業の工夫

I 団体の概要

本研究会は東京都で歴史教育に携わる学校教職員で組織され、会員相互の歴史教育研究を通じて、生徒並びに社会一般の人々に歴史の見方・考え方を正しく理解させ、以て社会の発展に貢献することを目的としている。主な活動として、大学教授等を招いた講演会、年4回にわたる授業研究会、博学連携など、新しい指導法の確立に向けた教科指導法研究会、大学入試検討委員会、年2回都内近郊を中心とした史跡見学を実施している。また、全国歴史教育研究協議会、関東歴史研究協議会などの研究会との連携を図りながら、全国の歴史教育に携わる方々と交流を深め、生徒にとってより良い歴史教育となるように日々研鑽と情報発信を行っている。

Ⅱ 講演会

5月に行われた講演会では、お茶の水女子大学名誉教授の小風秀雅氏による講演が行われた。歴史総合でも扱われるペリー来航を世界史の交通革命と関連づけて深く解説してもらい、生徒の興味・関心が高まるような授業に活用できそうな内容をご教示していただいた。11月には、専修大学教授の志賀美和子氏を迎えて、インドのサティの風習に関して議論を深めることができた。来年度は、探究科目が実施2年目になる中で、総合科目と探究科目とどう接続させるかに関して、教育現場での実際の状況に関しても意見交換を踏まえながら、今後どのように取り組むべきか考察していきたい。

Ⅲ 授業研究

今年度は研究授業が4回実施された。今年度から「日本史探究・世界史探究」が実施されることに伴い、各担当授業者が、歴史総合と接続させ、単元を通観する問いの開発や、観点別評価を踏まえ、ICT機器を活用した授業実践等、多岐わたる授業実践を行った。

「歴史総合」との接続や、指導と評価の一体化に向けた授業の一層の充実など、様々な課題は見えたものの、新しい科目名となり、歴史教育が大きく転換する形となった今、多くの先生方と一緒に授業の在り方について意見を交流できたことは大きな成果といえる。

Ⅳ 大学入試検討委員会

大学入試問題検討委員会は、日本史部会と世界史部会に分かれて活動している。毎年発刊される入試問題をメンバーで分担して研究し、高等学校における標準的な学習内容に照らし合わせて適切な出題がなされているかどうかを、高校教員の立場から分析している。8月に「進学指導研究会」という形式で、詳細な活動報告を実施できるよう工夫している。今後は新指導要領に基づいた新たなタイプの入試問題が増えることが予想されるため、本委員会の存在意義はますます大きなものになると考える。

V 教科指導法研修

教科指導法研修では、歴史教育における教材開発や博学連携など外部機関との連携を図り、授業力向上並びに、生徒の新たな学びの場を創設することを目的としている。今回、練馬区にある東京都立大泉高等学校附属中学校にて、国立歴史民俗博物館の特任教授、大井将生氏をお招きし、教材開発を目的とした研修を実施した。今回の研修に関しては、国立国会図書館のプラットフォーム「JAPAN SEARCH」を活用し、関東大震災のキュレーション学習に関する教材開発の方法を分かりやすく学ぶことができた。「JAPAN SEARCH」を活用することで、デジタル情報資源を効率的に発見できる可能性があるということは、大変興味深かった。新学習指導要領では、授業において史資料の活用が非常に重要なため、この研修から新たな知見を広げることができた。

VI 史跡見学

今年度の史跡見学は、11月12日(日)に「千住宿周辺をめぐる」江戸四宿を訪ねて第1弾をテーマに実施された。千住宿をめぐって当時の人々の暮らしぶりに関して、実際の宿場跡を巡った。小塚原回向院では、境内には安政の大獄で処刑された橋本左内の墓をはじめとして、吉田松陰や頼三樹三郎、井伊直弼を襲撃した水戸藩士の墓を見ることができた。ほかに、二・二六事件で暗躍した磯部浅一の墓などもあり、歴史の一端を垣間見ることができた。他にも様々な場所を探索し、松尾芭蕉にまつわる貴重な資料と詳しい解説を講師からしていただき、生徒を高める有益な教材を手にすることができた。来年の3月は、品川宿周辺を巡る史跡見学となっており、こちらも、普段なかなか見ることができない資料を活用した深い学びの実践につながるよう進めていく。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都歴史教育研究会】

Ⅳ 成果とまとめ

今年度から、世界史探究・日本史探究が始まる中で、昨年度から始まった歴史総合とどう接続していくかについて、先進的な取り組みを紹介しつつ、各会員の来年度に向けた現時点での取り組みを基に議論を交わしながら進めることができた。

今年は、全国歴史教育研究協議会が東京で行われ、全国の歴史教育に携わる多くの方と今後の歴史教育の在り方について議論を深めることができた。

課題として、オンライン等をさらに活用しながら、様々な状況下でも実施できるよう取り組みを進めているが、まだまだ運用が十分にできていないため、今後ノウハウの蓄積を増やしていく。

以上を踏まえ、来年度より本格実施の新学習指導要領に基づいて 授業実践を進めていく東京都の地理歴史科の教員にとっての懸け橋 となれるよう今後とも研鑽を深めていきたい。

<連絡先>

団体名		東京都歴史教育研究会	
	所属	東京都立葛西南高等学校	
代表者	職 氏名	校長 関山 勝之	
	連絡先	03-3687-4491	
	所属	東京都立武蔵野北学校	
事務局	職 氏名	主任教諭 細川 貴之	
	連絡先	0 4 4 2 - 5 5 - 2 0 7 1	

研究主題等 新学習指導要領で求められる公民科教育の資質・能力と指導方法 ~ 「公共」の指導の在り方を中心に~

I 団体の概要、研究の目的

【団体の概要】

前身の研究会から70年余りの歴史をもち、主として「倫理」「政治・経済」「現代社会」「(新学習指導要領での)公共」についての会員相互の研究を通して、東京都の公民科・社会科教育の振興を図ることを目的としている。

現在の研究会の活動としては、年数回の研究会を行うとともに、官民問わず様々な外部団体と連携して公民科・社会科教育の発展に取り組んでいる。また、研究の内容を年1回、研究紀要としてまとめ、全都立高等学校等に配布している。

Ⅱ 取組内容、成果、課題

【研究の目的(研究テーマ)】

- ・新しい学習指導要領と同解説を踏まえた授業法の研究、開発及び改善 を目指す。
- ・大学入学共通テストの研究・分析を通して生徒の学力向上に資する授業の改善、並びに大学受験に係る指導方法の改善を目指す。

【研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容】

- ・新しい学習指導要領の公民科新科目「公共」における指導方法につい て
- →特に、指導の在り方、観点別評価の導入方法について研究を行っ

研究授業、講演会、研修会及び夏季研修会の実施 (合計で年4回程度)

【例年の研究授業】

- ・通常の研究授業に加え、税務署等の 外部機関と連携した授業を実施 【今年度の講演会、研修会】
- ・「公共」の授業に向けた指導案の検討」(研修会)
- ・大学入学共通テスト解析会(同)
- ·全国公民科·社会科教育研究会全国大会(東京大会)

【成果】

- ・コロナ禍前の水準まで研究 会を開催し、その中でも各学 校での取組を研究し、合わせ てコロナ禍で進んだオンライ ン授業での取組なども共有す ることで、研究活動を継続し ていくことができた。
- ・昨年度に続き、全国研究大会(ハイブリット形式)を開催できた。

【課題】

□ 令和5年度全国公民科・社会科教育研究会全国大会(東京大会)

【開催概要】

1.期日

令和5年7月28日(金)

2. 会場

東京都立赤羽北桜高等学校

3. 大会主題

「未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する公民科教育のあり方」 4. プログラム

- ●記念講演 澁澤 健 氏(シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締 役、新しい資本主義実現会議 有識者構成員)
- ●教科調査官講話(磯山恭子、井上結香子両教科調査官)
- ●分科会報告
- ○「公共」「倫理」に関する分科会

白井 裕輔 先生(東京都立小石川中等教育学校)

「中学校社会(公民分野)と高校公共の発展的接続

~効率と公正、帰結主義と義務論を用いた合意形成~」

内久根 直樹 先生(千葉県立東葛飾中学校·高等学校)

「「公共」の授業を逆向き設計する推察/転移/交差性」

○「公共」「政治・経済」に関する分科会

佐々木 啓真 先生(東京都立世田谷泉高等学校)

「どのように金融経済教育を行うか

~家庭科との教科間連携を含めた実践事例~」

高屋 恵理 先生(岩手県立黒沢尻北高等学校)

「社会参画意識を高める「公共」の授業づくり

~「見方・考え方」を働かせて考察、構想する学習活動の充実を通して~」

【研究大会の成果】

昨年度に続き、本研究大会はオンラインを併用したハイブリット形式での開催となり、昨年度を上回る約130名の参加者のもと盛会に終わった。高校教員だけでなく、中学校教員や家庭科教員、教育関係者等、今までになく多様な参加者のもとでの研究大会となった。

本研究大会では、政府の「新しい資本主義実現会議」有識者構成員も務められる澁澤健氏から、「渋沢栄一の「論語と算盤」で次世代の未来を拓く」を

テーマに記念講演をいただいた。記念 講演に続き、教科調査官講話、分科会報告が行われた。分科会報告では、 令和4年度より始まった「公共」についての実践報告や、家庭科との教科 間連携の実践報告が行われた。参加 者との意見交換も活発に行われ、有意義な研究大会となった。



研究大会(教科調査官講話)の様子

<連絡先>

団体名		東京都公民科・社会科教育研究会	
	所属	東京都立世田谷泉高等学校	
代表者	職 氏名	統括校長 沖山 栄一	
	連絡先	03-3300-6131	
	所属	東京都立蒲田高等学校	
事務局	職 氏名	主幹教諭 淺川 貴広	
	連絡先	03-3737-1331	

研究主題 高等学校公民科「倫理」「公共」に関する教員の指導力の向上 ~指導内容である学問も深める~

I 団体の概要

当研究会は、東京都の高等学校公民科の教員を中心に、その他の教科や校種の教員、大学生、大学院生、他県の教員等にも開かれた、自主的に集い主体的に研究を行う団体である。なお、会の維持運営と発展のために今年度は、役員は14名、事務は15名が担当している(役員と事務局の兼務を含む)。

Ⅱ 研究の目的

当研究会は、「倫理」や「公共」などの学習内容の研究とそれらの指導方法、授業方法、評価方法の研究、それに参加者同士での課題や研究成果の共有化等を主な目的としている。

Ⅲ 研究の方法

(1) 研究例会(年3回1、2、3学期に開催)

公開授業や研究発表とその研究協議を実施し、教科指導力の向上を実 践的に目指す。

研究者による講演を実施した後、質疑応答も行って指導内容としての 学問や現実社会について理解を深め授業技術向上に活かしている。

- (2) 研究協議会(年2回夏季及び冬季に開催)
- ①原典訳書、哲学・倫理分野を主とする入門書・研究書の輪読を通じて 指導内容に関する知見を深める。

②授業事例の発表

- ③教科書や資料集の比較検討、哲学対話の研修、観点別評価の実践研究 など、より多くの参加者を見込んだ研究例会を実施している。
- ④出版物を材料とした「公共」「倫理」の事例研究

『新科目「公共」「公共の扉」を生かした 13 主題の授業事例集』の掲載 事例について検証と考察を継続していく。

(4) 事務局と連携した研究部体制の再構築

研究例会や研究協議会の開催にあたっては、事務局との連携を図りつつ、研究部内で担当と副担当をそれぞれ充て、協力体制をつくり、研究活動を持続発展させていく。

(5) 全国組織、他教育研究団体、各大学等との交流

今後の研究活動の充実を図り、研究団体としての社会への発信力を高めるためにも、会員相互の情報共有を進め、関連教育研究団体・学会・大学等との意思疎通を密にして交流を深める。

(6) 研究紀要の発行

1年間の研究活動とその成果、課題等をまとめ、発表する。さらに会員による定期的な検討の場を提供していく。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校「倫理」「公共」研究会】

Ⅳ これまでの研究の主な内容

(1) 学術講演

第1回「現代宗教とカルト問題」

講師 東京大学名誉教授 島薗進先生

第2回「日本社会の変容と課題:メリトクラシーを弱毒化するために」講師 東京大学教授 本田由紀先生

第3回(冬季研究協議会にて)「心理学教育への期待-パーソナリティ心理学の観点から-」早稲田大学教授 小塩真司先生

- (2) 研究授業
- ① (第1回例会にて)墨田川高等学校2年E組「公共」における「公共的な空間における基本的原理」
- ② (第2回例会にて) 小川高等学校3年7組「倫理」における「実存主義と自己責任論について」
- (3) 読書会

夏季研究協議会の課題図書:ホルクハイマー,アドルノ『啓蒙の弁 証法』徳永恂訳、岩波文庫、2007年、)

(4) 研究発表 ①「"公共"に向けて倫理の授業を考える一進路 多様校と通信制高校での授業実践―」 ②公民科「観点別評価」 についての研修会 ③事例1「AIの進化と職業選択」 事例2「ワ クチンのグローバルな分配に向けた国際協力のあり方とは?④「新 課程「倫理」心理学分野から考える」





<令和5年度連絡先>				
5	団体名	東京都高等学校「倫理」「么	\$共」研究会	
	所属	東京都立墨田川高等	学校	
代表者	職 氏名	校長 渡邊 範道		
	連絡先	03-3611-2125		
	所属	東京都立杉並高等学校		
事務局	職 氏名	主任教諭 伊藤 昌彦		
	連絡先	03-3391-6530		
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		http://www.torinken.org/		

研究主題 理科の実験実習における安全管理と、効果的・効率的な実験実習方法について

Ι 団体の概要

「理科の実習助手にも研修する機会が欲しい」と希望する有志によ り、平成11(1999)年3月12日に都立蔵前工業高等学校にて第1 回講習会と総会が開かれ、『東京都高等学校科学教育研究会』が発足 した。都立高等学校で勤務する理科の実習助手が主体となって活動し ており、平成 26 (2014) 年度に東京都教育委員会研究推進団体の認 定を受け、現在に至る。

主に、理科の実験実習を安全に効果的・効率的に行うため、実験の 準備・方法等の研究協議を行っており、また、理科実習助手の資質の 向上を図るため、科学教育関連の講演や施設の見学会を計画し開催し ている。

また、これらの活動を「東京都教職員研修センター教育課題研究発表 会」に合わせて発表し、隔年で発行の会報にて報告している。

Ⅱ 研究の内容

第1回研究協議会

開催日:令和5年7月4日(火)

会 場:都立国立高等学校



『マイティーパックとシリンジを使った実験の工夫』

ふたまた(さ状)試験管などで気体を発生させていたものを、マイティー パックと三方コック、シリンジを使用することで効率よく、かつ、安全に 実験できるように工夫をした。また、その準備と片付けを考えた。



(分子量・気体の臭い・色などの性質から、 未知の気体A・Bを推定する。)



ひとりが注射器のピストンを思いっきり引き、 トンを引いたまま、もうひとりが穴に釘を差し込



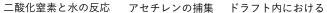
装置を立てて



気体をシリンジに













銅イオンの反応

実験『窒素の化合物』『アセチレンの性質』『硫化水素と二酸化硫黄の反応』 『フェノールの遊離』『銅・銀の化合物』

第2回研究協議会(見学会)

開催日:令和5年12月6日(水)

会場: おおはし里の杜、目黒天空庭園、オーパス夢ひろば

テーマ

『都市の街づくりと生物多様性

~目黒区大橋ジャンクションにオオタカが飛来するまでとこれから』

目黒区大橋ジャンクション屋上には、天空庭園やおおはし里の杜が存在する。おおはし里の杜では、かつて目黒川沿いに広がった原風景が再生され、水田には在来水生昆虫が生息し、昨年度はオオタカの飛来も観測された。これらの施設のこれまでの取組みや成果に触れながら現地を見学することで、SDGsの観点に基づき、生物多様性やこれからの循環系社会についての知見を広げた。





目黒天空庭園見学

おおはし里の杜(大橋換気所)

首都高速道路株式会社 HPより

おおはし里の杜:首都高速道路株式会社

参考 URL https://www.shutoko.co.jp/efforts/environment/coexistence/ohashi/

Ⅲ 成果と今後の活動

今年度も研究協議会を開催し、実習・実験を支える者としての知識と技術の向上を図ることができた。また実習助手の他に、実習支援専門員、教諭等の参加もあった。

研究協議会の企画検討・会の運営については、事務局会議や運営 委員会を対面とオンライン併用することで、広い意見を集約し運営 に生かすことができた。

3月に第3回研究協議会を計画している。研究会活動報告として 会報誌を隔年で発行する予定である。

IV 団体の取組

研究会の活動報告として、会報誌をこれまで第13号まで発行し頒布している。



団体名		東京都高等学校科学教育研究会	
	所属	東京都立東大和高等学校	
代表者	職 氏名	校長 加藤 武	
	連絡先	先 042-563-1741	
	所属	東京都立大泉高等学	单校
事務局	職 氏名	専修実習助手 仲川 由美	
	連絡先	03-3924-0318	
		URL	二次元コード
団体ホームページ		_	_

研究主題 東京都における物理・化学・地学教育の推進・発展 東京都における若手教員への教育実践等の継承、東京都における物理・化学・地学教員の研修の機会の設定

I 団体の概要

東京都内の高等学校(都立・国立・私立)の理科教員のうち加盟を希望する者で構成される組織で、理科(物理・化学・地学)に関する教育実践、研究及び研究団体の後援を行う教育研究団体である。

Ⅱ 令和5年度 専門委員発表テーマと研究概要

【物理専門委員】発表テーマ: 「続・やってみたい物理の授業と実験」

昨年度から引き続き「続・やってみたい物理の授業と実験」というテーマの下、「授業研究」と「教材研究」の2本柱で生徒の理解を助ける教材の開発や、既存の教材・実験の効果的な授業への導入などを研究し実践してきた。

本年度も年間 10 回程度の活動を目標としており、専門委員もベテランから若手までがそろっているため、それぞれの視点で日々研究を進め、定期的に定例会に持ち寄り、協議している。

【化学専門委員】発表テーマ:「化学実験と観点別評価」

学習指導要領の改訂に伴い、学習評価を充実させて、授業の改善と評価の改善を 行っていくことの必要性が示されるとともに、令和4年度から指導要録に観点別学 習状況の評価を記載することとなった。また、理科においては、「探究の過程」が 示され、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証実験データの分析・ 解釈などの探究の方法の習得と、報告書の作成や発表などによって科学的に探究す る力を育てることが重要とされている。

以上のことから、本化学専門委員会では「化学実験と観点別評価」をメインテーマとした。様々な事物、現象について化学的に捉え理解を深めることができる授業

を追究するため、それを実現する実験を研究した。具体的には、観点別評価についての教員調査、ルーブリック評価の研究、新規の化学実験の開発、従来の化学実験を授業展開に位置付ける提案、研究を元にしての実践を行った。今年度は、年間約15回程度の定例会を実施して研究協議を行い、委員同士や、時には指導教諭の方をアドバイザーに招いて多角的に研究の改善を図ってきた。

【地学専門委員】発表テーマ:「地学巡検の実践紹介」「天体観測実習」

地学巡検と天体観測は、地学の探究的な学びの中で重視される実習であるが、専門知識や経験がないと充実した実習は難しい。近年、都立学校では地学教員が減り、かつて各校で行われてきたフィールドワークはかなり減少したが、学習指導要領の改訂に伴い、探究の方法の習得が求められたことにより、フィールドワークを実施する学校が、新たに出てきた。そこで、ベテラン教員を中心に、授業や課外活動として行っている実践を若手教員に紹介し、またフィールドワークに実際に参加してもらうなどして、研究を進めた。天体観測や天文教材については、デジタル化の進んだ機材が増え、使い方が複雑になったもの、非常に簡単に撮影できるものなど、機材が多様化しているため、使用法や観測技術について、様々な機材を紹介し、実習を行った。また、撮影やその後のデジタル処理も含め、授業や探究活動に活用できるよう、研修を行った。

Ⅲ 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

- ・研究発表大会(物理・化学・地学)の募集及び主催(12月)
- ・専門委員会(物理・化学・地学)における研究(原則月1回)及び発表(1月)

IV 取組の内容

- ① 全国理科教育大会(8月)への参加・発表
- ② 次世代物理教育研究会(SPN)(原則月1回)、次世代化学教育研究会(SCN)(原則月2回)
- ③ 講演見学会(化学8月(化学工学会共催)、地学2月(外部講師))
- ④ 講演会(物理10月(外部講師)、化学8月、地学7月(外部講師))
- ⑤ 実験講習会(化学10月(外部講師)、地学8月)
- ⑥ 研究発表大会(12月)
- ⑦ 専門委員発表会(1月)
- ⑧ 研究発表集録の発行(3月)

V 成果

- ① 全国の先生方との交流・情報共有を行った。
- ② 若手の先生方への教育技術の継承を行った。
- ③ 先生方の専門性を深め、知見を広げることができた。

VI 12/9 (土) 個人発表題目

<物理分野11件>

- ・楽器の仕組みを意識した物理基礎波動分野の指導の工夫
- ・物理はなぜ難しいか=日常の経験・日本語の会話との齟齬について考察する=
- ・磁場中を運動する導体棒に生じる誘導起電力についての考察
- ・生徒に見せたいミニ演示実験動画の紹介
- ・空中ディスプレイの製作と教材化
- ・探究の過程を歩む授業のために
- ジオプトリ使用のすすめ
- ・物理 STEAM・PBL 実践報告および効果検証報告
- ・生徒同士による相互評価を取り入れた熱に関する授業の研究

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都理化教育研究会】

- ・ヤングの実験、白色光の干渉縞の観察
- ・黒板に貼る波の反射説明シート

<化学分野7件>

- ・少量で簡便なメチルオレンジ合成法の検討
- ・滴定に関する実験2
- ・実験で理解する理論化学~電池編~
- ・アボガドロ定数の値を墨流しを利用して求める。
- ・ゴールドカードつくりの工夫と実践報告-金の透過光による純金識別カードをつくり-
- ・平面的電池型スズ樹の生徒の研究指導ー電池型スズ樹の研究指導の実践報告ー
- ・短冊ろ紙に樹をつくる電池型スズ樹の開発-スズ樹の栞つくり実験の工夫と実践 報告-

VII 課題

- ・理科(物理、化学、地学)教育についての研修を実施する機会の確保
- ・退職者の増加に伴う、若手教員への教育技術等への継承
- ・新規採用者等、若手教員への幅広いアプローチ

<令和5年度連絡先>				
団体名 東京都理化教育研究会				
所属	東京都立小平南高等学校			
職 氏名	校長中野清吾			
連絡先	042-325-9331			
所属	東京都立両国高等学校・附属中学校			
職 氏名	主任教諭 田中 志乃			
連絡先	03-3631-1815			
	所属 職 氏名 連絡先 所属 職 氏名			

研究主題 主体的・対話的で深い学びへとつながる、授業で行う探究活動の指導法の研究及びその評価 について~令和5年度東京都生物教育研究会活動について~

I 東京都生物教育研究会

団体の概要 東京都の高等学校の教員を中心に、824 名の会員からなり、生物教育の充実を図るとともに、教員相互の情報交換を密にするため、支部・総務部・編集部・研究部・委員会に組織を分担し、活動している。総会と教職員研修センターとの連携研修を年に1回、研究部の研修会を毎月1回、各支部の研修会を年に2回、教材開発委員会・生態学教育委員会・海洋生物研究委員会・教育課程委員会・社会連携委員会の各委員会主催の研修会を年に2回程実施しており、活動記録は都生研会誌として発行している。また、毎年、日本生物教育会や日本生物教育学会等における全国大会での発表を行うとともに、全国の生物教育研究会との連携も定期的に行い、日本の生物教育の向上を目指して活動している。

研究の目的 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向け、理科の見方・ 考え方を働かせた探究活動の指導力、多様な校種及び生徒の実態に合わせ た展開・汎用力を向上させる。また、その評価について研究する。

研究の内容 教材開発、フィールド調査、実験講習、研究協議会等、年間 20 回以上の研修会企画、大学や国立科学博物館などの研究機関との連携による教材開発、高大連携研修、及び最新研究講演会の開催をとおして、教員の指導力向上につなげる。

研究の方法 研修会実施後に参加アンケート、研修評価及び協力いただける 方の研修後の追跡調査を行った。

```
団体の取組
【総会】 7/8 東京都生物教育研究会総会、及び講演会
東山 哲也 (東京大学教授)「めしべの中:植物生殖の仕組みと謎」 35名
       12/26
        2/11 生物部交流会
【3 · 4 支部】
       6/10 日本生物教育学会第 107 回全国大会 都生研会員によるアンコール発表会 17 名
        2/12 「野鳥観察と研究協議会」
【5・6支部】
       6/13 支部総会及び「ICT 活用・新課程生物基礎・生物の実践及び評価」に関する研究協議会 6名
10/28 [遺伝子組換えの実験法」に関する授業公開・研究協議会 7名
       10/28
              「国立科学博物館におけるワークシートの活用」についての研究協議会 8名
【多摩支部】
       6/3 水田の生物観察と研究協議、兼多摩南北支部総会 8名
11/26 「八国山観察会」野鳥観察 6名
12/16 【第9回生物勉強会】高尾山でのシダ・ムササビ観察~座布団が飛んだ日~(勉強会共同企画)
              「冬の多摩川中流域の野鳥観察と研究協議会」
       1/13
【研究部】
・研究協議会
             【第1回生物勉強会】「高尾山での春の野花観察」についての研究協議会 11名
【第3回生物勉強会】「ブタ頭部を用いた脳、眼球、内耳の観察」 11名
【第4回生物勉強会】「教材生物の維持方法及び活用方法」 12名
        4/8
       6/8
             東京都生物教育研究会恐竜学講演会及び研究協議会
             講演「最新恐竜学 6600万年前の大量絶滅から現代、そして近未来を考える」
       講演「最新器竜学 6600 万年前の大量絶滅から現代、そして近未来を考える」

真鯛 真(国立科学博物館副館長)

9/22 (第5 回生物勉強会)「理科の見方・考え方を働かせる樹木の葉の比較観察実習」 7名

10/14 (第6 回生物勉強会)「勇成鏡観察のためのブレバラート作成と染色方法の基本と工夫」 15 名

10/21 (第7 回生物勉強会)「高尾山での秋の野花観察」 7名

(第8 回生物勉強会)「活性汚泥を用いた顕微鏡観察」 10 名

第1/21 (第10 回生物勉強会) ニワトリ胚を用いた発生過程の観察とその探究方法

2/3 (3) ブリンターを使った古人骨模型の作成と授業での使い方」

令和6年共通テスト分析会

3/2 (第11 回生物勉強会)「手動 PCR、手作り電気泳動槽」
·教材開発委員会
        春・秋のカイコ配布活動
· 生態学教育研究委員会
        7/1,2 宿泊研修「FSC 認証林と林床植物の多様性を学ぶ」 7名
2/18 「海に戻った哺乳類"クジラ"の骨格形態から生物の進化について考える」
· 社会連携委員会
       10/28、11/25、12/23、2/17 「ヒトとサルの進化から考える社会と多様性」に関する研究協議 30 名
· 教育課程委員会
            「新課程 生物基礎・生物」についてのシンポジウム・研究協議会 90 名
       6/20
【連携研修】
【合同開催】
        12/9 令和 5 年度東京都生物教育研究会・東京都理科教育研究会共催研究発表会・研究協議 100 名
```

Ⅲ 実践事例

○連携研修専門性向上研修理科Ⅱ、Ⅲ

第1回では、東邦大学井上英治先生を講師に、動物の行動を数値化して分析する方法を、上野動物園の霊長類などを実際に観察することを通して、観察方法、及び記録の仕方を実践的に学んだ。第2回では、第1回で記録した動物の行動をExcel に入力し、ピポットテーブルで様々な視点からグラフ解析を行った。佐野教諭の生徒の課題研究などの実践発表を通して、参加者は所属校の生徒観をもとに研究協議を行った。

○都生研研修会

令和5年度は、観察・実験手技の実践練習、及び探究指導や評価方法についてなどの研究協議を計46回の研修会を開催し、計625名が参加した。

○令和6年度日本生物教育会全国大会東京大会準備委員会

全国大会で行う記念講演、シンポジウム、実験講習及び現地研修開催に向けて、大 学教員とオンラインで、及び研修会を開催し、研究協議を行った。また伊豆大島、 檜原村、高尾山などフィールド調査を行う宿泊研修を通し、研究協議を行った。































【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都生物教育研究会】

Ⅳ 研究の成果と課題(まとめ)

研究の成果

○連携研修専門性向上研修理科 [

第1回:動物の行動を数値化して捉える見方や記録方法など、専門的な知識や、最新の知見を学べた。また実際の観察、記録を通し、探究的な指導方法ついて研究協議できた。第2回:参加者の幾人かは、ICTの活用やExcel 処理、数値の分析にやや難しさがあるという意見もあった。しかし実践発表にて、他の動物、及び登校困難な生徒が自宅でも取り組みが可能な課題研究に汎用できる方法であることが紹介され、所属校の生徒観に合わせて実践してみようと前向きな意見が協議にてでていた。他、探究過程を取り入れた授業の課題として、課題のテーマの設定が非常に難しいことが共通課題として挙げられており、他校実践内容を参考に協議は活発に行われた。

○令和6年度日本生物教育会全国大会東京大会準備委員会について

宿泊研修、研究協議を通し、実物の見方・考え方を教員が身に付けることで、課題発見 の生徒指導につなげられるという意見があった。教員同士がつながる機会となった。

○都生研研修会について

観察・実験手技の実践練習及び研究協議を通して、概ねの参加者が実際に授業で実践したいと回答していた。また各研修にて紹介された多様な探究を取入れた授業例が、各参加者の様々な生徒観にも近く、積極的な質問からも授業への取組みの姿勢が伺えた。

実践紹介や研究協議によって、研修内容についての知識・理解が深まった 平均 3.86 今後、研修の成果を活かそうと思っている 平均 3.86

(アンケートは研究協議会参加者に4点満点で集計したものである)

今後の課題 探究の過程を授業に取り入れることの普及は、今後も持続させていく。また、探究の評価方法、及び他教科との提出物の重なりなどで生徒の負担になっていることが新たな課題としてあげられた。引き続き探究指導法、実験講習、評価方法などの研修会を開催していく。

団体名		東京都生物教育研究会			
	所属	東京都立三田高等学校			
代表者	職 氏名	校長の田の隆志			
	連絡先	03-3453-1991			
	所属	東京都立小石川中等教育学校			
事務局	職 氏名	主任教諭 佐野 賃	主任教諭 佐野 寛子		
	連絡先	03-3946-7171			
		URL	二次元コード		
団体ホームページ		https://toseiken.jimdofre e.com/			

研究主題 東京都の現状を考察し、心身の健康をさらに高める保健体育授業の創造 ~ 課題をどのように捉え、創作していったか ~

I 本研究会の概要

1969(昭和 44)年に本研究会は設立された。組織構成は、事務局に経理部、庶務部、行事部の3つの部署、研究局に体育部、保健部、定通部(定時制・通信制部)の3つの部署を置き、さらに行事部の中に専門委員会として舞踊研究委員会、スキー研究委員会、テニス委員会を置いている。その他に全都を10の支部に分け、支部組織としている。研究局の3つの部と行事部の2つの研究委員会が継続的に研究活動を行っており、定期的に関東地区高等学校保健体育研究大会で発表している。令和4年度は神奈川大会において、保健部と定通部が発表した。本年度は群馬大会において、体育部と舞踊研究委員会が発表し、ここでは舞踊研究委員会の研究を報告する。

Ⅱ 研究の経緯と目的

東京都高等学校保健体育研究会舞踊研究委員会では、指導の充実・発展を図ることを目的として、創作活動の理論と実技について研究を行っている。その一つとして、昭和29年より東京都高等学校舞踊研究発表大会を開催している。毎回教員のための研究課題を設定し、今回も第41回大会から継続して取り組んでいる「課題をどのように捉え、創作していったか」をテーマに発表大会を実施した。『創作活動の記録』と『鑑賞表』を用いて研究資料の収集と分析を行い、創作過程においてどのような点を重視することでより印象深い作品を創作できるかについて考察した。

Ⅲ 研究の内容

(1)研究発表大会概要

日 程 令和4年10月30日(日)

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール

講 師 東海大学教授 中村なおみ氏

日本女子体育大学准教授 髙野 美和子 氏

発表作品 課題「挑」3作品、自由課題 11 作品、計 14 作品

出演者数 301 名

(2)活用した資料について

『創作活動の記録』

「最も表現したい内容や共通理解を深めるために行ったこと」、「基本となる動きのモチーフ」、「動きを創る際の工夫」、「使用曲」、「創作過程で重視した点(題名、モチーフ、群の構成、表情、踊り込み、音楽、衣装、その他)」の記入できるもの。

『鑑賞表』

「良かった点」を「題名、モチーフ、群の構成、表情、踊り込み、音楽、 衣装、その他」より選択する形式で記入、「最も表現したい内容」が表さ れていたか A~C の評価を記入、また特に印象に残った作品につい て記入できるもの。

「印象に残った作品」のコメント数と「最も表現したい内容」が表されていたかどうかの評価、創作過程で重視した点と鑑賞側の「良かった点」の比較を表2にまとめた。(紙面上の都合で表2は掲載なし)

Ⅲ 研究の内容(続き)

「最も表現したい内容」については一覧にまとめ、「創作活動で重視した点」については、公共施設にて開催された大会を対象として、令和元年度に行われた第 66 回大会との比較を表3にまとめた。各作品について「良かった点」としてあげられた上位3項目の合計数をグラフ1にまとめた。(ここでは紙面の都合で表3のみ掲載する。)

表3『創作活動の記録』より創作過程で重視した点について(3項目選択)

○前回…第66回大会 19作品、●今回…第69回大会 全14作品 上位3項目に網掛け

重視した	「特に重視した」、「重視した」と答えた			「特に重	こ重視した」と答えた作品数と		汝と	
項目	作品数の合計とその割合		その割合	その割合				
	第 66 回](前回)	第 69 回](今回)	第 66 回(前回) 第 69 回		第 69 回](今回)
1 題 名	9作品	47%	1作品	7%▼	4作品	19%	0作品	0%▼
2 モチーフ	12作品	63%	5作品	36%▼	4作品	19%	5作品	36%△
3 群の構成	10作品	52%	10作品	71%△	4作品	19%	6作品	42%△
4 表 情	9作品	47%	5作品	36%▼	4作品	19%	0作品	0%▼
5 踊り込み	5作品	26%	4作品	29%∆	0作品	0%	1作品	7%△
6 音 楽	7作品	37%	6作品	43%△	0作品	0%	1作品	7%△
7 衣 装	3作品	16%	8作品	57%△	0作品	0%	0作品	0%
8 その他	2作品※	10%	2作品	14%	0作品	0%	1作品※	7%∆

※「その他」内容 第66回…表現したいことを意識/小道具 第69回…小道具/題材・表現内容

<<この研究に関する問い合わせ>>東京都高等学校保健体育研究会 舞踊研究委員会 委員長 西澤多美(慶應義塾女子高等学校 03-5427-1674) または、委員 小川さおり(東京都立晴海総合高等学校 03-3531-5021)まで

Ⅳ 研究の成果とまとめ

『創作活動の記録』については、第66回と、今回の第69回を比較した。作品づくりにおいて、最も重視されている項目は、どちらも共通して「群の構成」の項目であり、変化なし。『鑑賞表』からは、第66回では「群の構成」や「表情」が良かった点として多く挙げられていた。次いで「踊り込み」や「モチーフ」となっている。そして第69回でも、同様の結果が得られている。これらの項目は、創作活動における主要項目となっている。創作する側が重視した点と、鑑賞する側の良かった点が合致している項目は、創作側の意図が伝わった成果であると考えられる。また、回答者の2分の1以上が良かった点として答えた項目に該当する作品では、「最も表現したい内容」の評価 A が、回答者の2分の 1 以上となり、「印象に残った作品」として 10 票以上の得票数を得ている傾向がある。表現したい内容が鑑賞者へ効果的に伝わり、見ている側にとって、より印象深い作品となったのではないかと考えられる。また講師の先生方から、ステージの使い方に関して演者同士の衝突や演技中に素に戻る瞬間があるなどの御指摘を頂いた。本番を想定した練習をさせる事が大切であると同時に、安心安全な環境整備を徹底し発表大会の企画、運営を行っていく。

団体名		東京都高等学校保健体育研究会	
	所属	東京都立日野高等学校	
代表者	職 氏名	校長 髙取 克明	
	連絡先	042-581-7123	
	所属	千代田区立九段中等教育学校	
事務局	職 氏名 主任教諭 長谷川 浩		
	連絡先	03-3263-7190	

研究主題:発表活動を通した高校生の言語能力及び英語力の向上

団体の概要

東京都高等学校英語教育の振興を図ることを主な目的とし、英語教育上の研究及び講習会の開催、並びに生徒の行う研究・発表(スピーチコンテスト、ディベート、プレイコンテスト等)の支援を行う。

I The 59th ENGLISH SPEECH CONTEST

TIME: 9:50 a.m., Sunday, October 29, 2023

PLACE: Tokyo Metropolitan Bunkyo Senior High School

SPEECH CONTEST [Part 1]

- 1) To My Dear Best Friend (Kokusai SHS)
- 2) 3Cs: Small Steps to Peaceful World (Komaba SHS)
- 3) Healthy Self-Hate: A Journey to Build Confidence (Shinagawa Shouei SHS)
- 4) The World Flooded with Greetings (Oshukan Secondary School)
- 5) HE had, but I don't (Seikei SHS)
- 6) From Cartoon Fantasy to Beautiful Reality (Den-en-chofu Futaba SHS)
- 7) Culture and Individuality (Chihaya SHS)
- 8) No Bias at Girls' School (Shinagawa Joshi Gakuin SHS)
- 9) Are Our Actions Really Eco-Friendly? (Fuji SHS)
- 10) The True Motto in Education (Tachikawa SHS)
- 11) Going off Script (Dalton Tokyo SHS)
- 12) Subconscious Bias (Shinobugaoka SHS)
- 13) My Road to Confidence (Adachi SHS)
- 14) Finding Empathy, Restoring Hope (Koishikawa Secondary School)
- 15) Math: What's There to Be Afraid of? (Hibiya SHS)

PRIZES: [Part1]

1st Prize: Going off Script

2nd Prize: From Cartoon Fantasy to Beautiful Reality

3rd Prize: Finding Empathy, Restoring Hope

SPEECH CONTEST [Part 2]

- 1) Girls for STEM (Kokusai SHS)
- 2) The Importance of Delivering Your Thoughts (Seikei SHS)
- 3) Diversity (Komaba SHS)
- 4) Paper Beats Technology: Why You Should Handwrite Your Note (Hibiya SHS)
- 5) Rise Japan, Make a Difference (Dalton Tokyo SHS)
- 6) Reject Othering, Embrace Saming (Den-en-chofu Futaba SHS)
- 7) This Is Me (Koishikawa Secondary School)
- 8) Perfectionism (Mita SHS)

PRIZES: [Part2]

1st Prize: Paper Beats Technology: Why You Should Handwrite Your Note

2nd Prize: This Is Me 3rd Prize: Girls for STEM

Judges: Professor Emeritus MATSUSAKA Hiroshi (Waseda University)

Association Professor HAYASHI Takeshi

(Yokohama College of Commerce)

Ms. Rhonda TEZUKA (Reach English School)

令和5年10月29日(日)、都立文京高等学校にて実施した。第1部(出場資格に制限あり)では15名が出場、私立東京ドルトン高等学校生徒による"Going off Script"が優勝、第2部(制限なし)では8名が出場、都立日比谷高等学校生徒による"Paper Beats Technology: Why You Should Handwrite Your Note"が優勝した。各優勝者は、令和6年2月11日(日)開催の第16回全国高等学校英語スピーチコンテストに東京都代表として参加する予定である。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校英語教育研究会】

II The 74th ENGLISH PLAY CONTEST

TIME: 9:45 a.m., Sunday, November 5, 2023

PLACE: Toho Girls' Junior and Senior High School

PERFORMANCES:

1) The Greatest Showman (Shoei Girls' Junior and Senior High School)

P.T. Barnum grew up poor but achieved his childhood dream of learning about a theater with his beloved wife and two daughters. His theater is a home for diverse talents, where no one needs to hide oneself from the world. With the help of a professional stage producer, Barnum's theater becomes the center of attention. However, when Barnum becomes obsessed with pursuing fame...

The Greatest Show on the planet is about to start! We hope you have great laughs, great tears and great hope and it's up to us to find happiness in our lives.

2) *Crossroads* (Shirayuri Gakuen Junior and Senior High School)

The story takes place in the 1990s. An orphan called Zac is trying to make a living for his sick sister, Emma. Meanwhile, Lily, who was born into a rich family, is forced to follow in the footsteps of her famous family and sing opera songs just like them, instead of musical songs, which she prefers. One day, they both find out about a talent show with a prize of thousands of dollars. The two, who are total opposites, bump into each other and start preparing for the show.

3) Mean Girls (Toho Girls' Junior and Senior High School)

Cady Heron lived her first 15 years in the African jungle. During her life in Africa, she was homeschooled and never went to a normal school. Now she lived in Evanston, Illinois, where she is entering public high school for the first time. She doesn't know what "high school" truly means. She makes friends with Janis and Damian right after she enters the school, but she has difficulty getting used to her unfamiliar school life. One day Cady gains favor with "The Plastics", a group comprised of Regina George, Gretchen and Karen who are at the top of the school social pyramid. How will Cady handle this new situation?

PRIZES:

"Craossroads"が優勝した。

1st Prize: Crossroads (Shirayuri Gakuen Junior and Senior High School)

Judges: Ms. Rhonda TEZUKA (Reach English School)

Mr. Andrew HINKINSON (Shoto Junior High School)

令和5年11月5日(日)、私立桐朋女子中学・高等学校において、私立白百合学園高等学校、私立頌栄女子学院高等学校、私立桐朋女子高等学校の3校により演劇が披露され、私立白百合学園高等学校による

III The 26th ENGLISH DEBATE CONTEST

TIME: 1:30 p.m., Sunday, October 29, 2023 [Final]

PLACE: Tokyo Metropolitan Bunkyo Senior High School [Final]

RESOLVED: That the Japanese Government should legalize gestational surrogacy.

PARTICIPANTS [Preliminary Rounds]:

Koishikawa Secondary School, Mita International School, Soka High School Shibuya High School, Shinagawa Joshi Gakuin SHS, Mita SHS, Kokusai SHS, Senior High School at Komaba, University of Tsukuba, Kudan Secondary School,

Hiroo Gakuen SHS, Otsuma Nakano SHS, Shirayuri Gakuen Sensyu SHS

PARTICIPANTS [Final Round]:

Affirmative Side (Soka Senior High School)

Negative Side (Mita International School)

WINNER: Mita Ingernational School

令和5年10月15日(日)予選を12校で、10月29日(日)決勝は私立 創価高等学校と私立三田国際学園高等学校とが"That the Japanese Government should legalize gestational surrogacy."を論題に討論し、否定側の三田国際学園高 等学校が勝利した。

<連絡先>

団体名		東京都高等学校英語教育研究会	
	所属	東京都立飛鳥高等学校	
代表者	職氏名	校長 堀江 敏彦	
	連絡先	03-3913-5071	
	所属	東京都立農産高等学校	
事務局	職氏名	副校長 瀬田 栄治	
	連絡先	03-3602-2865	

研究主題 「情報 I 」の実践事例の共有と大学入試への対応に向けた情報科教員の資質向上

I 団体の概要

1. 目的·趣旨

平成 15 年度からの高等学校の必履修教科「情報」の開始をふまえ、東京都内の高等学校等での情報教育を向上すること、東京都内の高等学校における情報教育を研究・推進する目的で設置された。

高等学校に限らず、東京都内のさまざまな学校で情報教育に関わる 方々と共に研究活動を展開することも視野に入れて活動している。また、 教員に限らず、大学や専門学校等で情報教育を志す学生の方々にも参加 していただいている。

主な活動としては、教科「情報」に関する研究、各教科等での情報活用の研究、学校教育の情報化に関する研究などがある。

2. 今年度の活動

新学習指導要領の実施2年目となる今年度は、各学校の授業実践を広く共有することで、問題解決、情報デザイン、データの活用、プログラミングなど、内容が多岐にわたる「情報I」の指導についての資質を向上させることを目標とした。

また、来年度から「情報I」が大学の受験科目となることから、大学入 試への対応力の向上も必要となる。

そこで、オンラインツールを活用することで、より気軽に研究協議等に 参加できる体制を整え、幅広い実践事例や情報の共有が図れるような活動 を展開した。

Ⅱ 研究協議会

日時:令和5年6月10日

場所:東京都立立川高等学校(オンライン併用)

「AI とこれからの教育」というテーマで、Microsoft Innovative Educator Fellow2022-23の方に講演をしていただいた。

生成 AI の仕組みについての基本的な話からはじまり、生成 AI の発達により予測される社会の変容、その中での学校教育のあり方など、多岐にわたる話があった。そして、今後の学校教育でどのように生成 AI を活用していくのかを考える機会となった。

Ⅲ 授業ツアー

日時:令和5年11月1日

場所:東京都立昭和高等学校

本研究会では、普段の授業を見学する「授業ツアー」を実施している。ここでは、「情報 I」の「プログラムの基本構造」の授業を見学した。見学終了後の研究協議では、共通テスト「情報 I」に関する話題や「情報 I」の設置についての意見交換を行った。





【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校情報教育研究会】

Ⅳ 教科「情報」情報交換会

1. 第1回教科「情報」情報交換会(オンライン)

日時:令和5年7月4日

テーマ:「情報Ⅱ」どう準備する?

来年度、第3学年の自由選択科目として「情報Ⅱ」の設置が検討される中、その準備をどのように進めたらよいか、参考となる情報の入手先や年間授業計画などについての情報交換を行った。

2. 第2回教科「情報」情報交換会(オンライン)

日時: 令和5年11月27日

テーマ: 「情報 I | 生徒が自主的に学習できる教材

第1学年に「情報Ⅰ」を設置し、第3学年で「情報Ⅱ」や共通テスト対策の講座を設置する予定の学校が多くあるため、第2学年の時期に生徒が自主的に学習できるような教材が求められている。生徒からの需要に応じて紹介できる教材について情報交換を行った。

V 都高情研チャンネル

本研究会では、オンライン会議を活用し、さまざまなゲストを迎えて、コーディネータとの対談形式で気軽に視聴できる研修会「都高情研チャンネル」を実施している。





「都高情研チャンネル」テーマ一覧

第1回 テーマ:情報 I 初年度を振り返って

第2回 テーマ:1学期の振り返りと2学期に向けて

第3回 テーマ: 令和4年度における情報 I の授業実践について

第4回 テーマ:情報 I 1年間の流れとその内容

第5回 テーマ:「情報I大学入試」について

Ⅵ 成果と課題

大学入学共通テストにおける「情報 I 」の実施を来年度に控え、各学校の情報科の教員はその対応に追われている。大半の学校で1名しか配置されていない情報科の教員が、他校の教員と情報交換を行い、互いにさまざまな知見を得ることは、情報科の教員全体の資質向上に大きく貢献している。

来年度に向けては、「情報Ⅱ」の指導への対応も必要となる。

[団体名	東京都高等学校情報教育研究会		
	所属	東京都立田園調布高等学校		
代表者	職 氏名	校長 福原 利信		
	連絡先	03-3750-43	3 4 6	
	所属	東京都立小平高等学校		
事務局	職 氏名	指導教諭 小松 一智		
	連絡先	042-341-5410		
		URL	二次元コード	
団体ホームページ		http://www.tokojoken.jp/		

東京都の農業高等学校教育の発展並びに農業教育振興のための会員の指導力向上

I 団体の概要

東京都における農業高等学校教育の発展並びに農業教育の振興のた め、教職員の研修の充実を図り、あわせて会員相互の親睦を深めるこ とを目的とする。

- ●本会は、東京都の農業高等学校の教職員、及びこの会の目的に賛同 する者 (個人会員) をもって構成している。
- ●本会は、教職員の授業力向上等を図るため、次の4つの部会を設け ている。
 - (1) 生物生産部会 (2) 環境部会
 - (3) 資源活用部会 (4) 教養部会
- ●本会は、毎年3回総会を開いている。

総会は、原則として4月、8月、1月の長期休業中に開催する。 令和5年度は以下の日程で開催している。

- 4月15日(土)
- 9月2日 (十)
- 1月6日(土)

Ⅱ 研究部会の活動

【生物生産部会】

第1回研修会:令和5年5月13日(土) 19名参加

第2回研修会:令和5年7月20日(木) 8名参加

農業と福祉について

【環境部会】

第1回研修会:令和5年7月5日(水) 13名参加

講演、神代農場等見学

第2回研修会: 令和5年12月1日(金) 11名参加

造園技能検定課題を用いた指導方法の共有と

指導力向上

【資源活用部会】

第1回研修会:令和5年7月6日(木) 10名参加

顕微鏡の使用および細菌観察方法

第2回研修会:令和5年10月12日(木)10名参加

食肉製品中の食品添加物分析実験

【教養部会】

第1回研修会:令和5年9月26日(火) 9名参加

志村学園見学および教育懇談

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都農業高等学校教育研究会】

Ⅲ 活動の様子と総括

【7月6日(木)の資源活用部会の様子】





【9月26日(火)の教養部会の様子】





生物生産部会、環境部会、資源活用部会、教養部会の4部会に分か れ、教員や実習助手の知識や技術を高めるための研修会を年7回実施 した。都内農業系高校が協力し、園芸植物の栽培管理や園芸福祉等の 園芸系分野のみならず、食品製造の基礎となる実験分野や環境調査、 造園技能士の資格取得に向けた指導方法に至るまで、幅広く学ぶ機会 を得ることができた。また、異校種間連携で都立志村学園の見学も実 施することができた。今後も、新しい時代に対応し、多様な生徒の現 状を踏まえ将来を見据えた農業教育の在り方を学ぶ上で有意義な機会 にできるよう、研修会を充実させていく。

Ⅳ 総会

第1回総会:令和5年4月15日(十)

令和4年度事業報告・決算報告、令和5年度事業計画・ 予算計画、令和5年度担当部会確認、講演(静岡県立田方

農業高等学校 久保田 豊和 様)

第2回総会:令和5年9月2日(土)

令和5年度事業計画・予算確認、令和5年度各部会から活動 報告、講演(都立園芸高等学校長 並川 直人 様、神奈川

県立吉田島高等学校 教諭 石塚 洋平 様)

第3回総会:令和6年1月6日(土)

令和5年度会務事業報告、令和5年度会計報告(案)、 各研究部会発表、第6回全国高等学校農業教育研究協議会 伝達講習、講演 (㈱マイファーム 西汁 一真 様)

各回約60名が参加

・令和6年度は都立農芸高等学校が事務局となる。

(連絡先:03-3399-0191)

団体名		東京都農業高等学校教育研究会				
	所属	東京都立農産高等学校				
代表者	職 氏名	校長 江森 忍				
	連絡先	03-3602-2865				
	所属	東京都立農産高等学校				
事務局	職 氏名	主任教諭 上野 信二				
	連絡先	03-3602-2865				
		URL	二次元コード			
団体ホームページ		_	_			

研究主題 新学習指導要領に対応した商業教育の改革について

~「総合的な探究の時間」の代替科目である「課題研究」における探究的な学びについて~

I 団体の概要

当研究部会は東京都高等学校校長実践研究会に所属し、今年度は都立商業 関係高等学校の校長9名に加え、普通科高校の校長1名の全10名の部員により 構成され、商業教育に関する研究活動を行っている。

Ⅱ 研究主題について

1 主題設定の理由

新学習指導要領の実施2年目にあたり、各学校における商業教育の対応状況を調査・研究するために、前年度までの研究主題「新学習指導要領に対応した協業教育の改革」を継続とした。

2 研究のねらい

新学習指導要領では、自ら課題を見つけ、学び、考え、判断し、主体的に問題を解決する探究的な学びが重要視されている。そのため各校における実施状況とそれを学校の特色としてどう示していくかを研究のねらいとした。

3 研究内容について

各校における探究的な学びの検討・実施状況とそれを中心とした新たな中学 生向けの広報の在り方を研究するために、月例の研究会で事例発表を行い、研究・協議を実施する。

Ⅱ 昨年度までの研究概要

①令和4年度の実施状況

6月21日 研究主題の決定、年間計画、役割分担の検討・確認

7月 6日 探究学習事例発表(一商)、広報事例発表(葛商)

9月12日 探究学習事例発表(大田桜台、篠崎)

10月18日 探究学習事例発表 (三商)、広報事例発表 (五商)

11月8日 探究学習事例発表 (芝商、四商)、広報事例発表 (四商)

12月 6日 今年度のまとめと次年度の実施計画、取組内容の決定

②令和2・3年度の研究発表

8月24日 校長実践研究協議会 (オンライン)

令和2·3年度研究

新しい時代に求められる資質・能力を踏まえた商業教育の改革 その2

商業教育研究部会

発表内容

- 1 検証のための企業向けアンケートの 実施と分析
- 2 商業教育改革を受けて導入した取組の進化
- 3 都教育委員会から支援を受けた取組
- 4 ビジネス教育の特色を生かした実践事例
- 5 まとめと今後の課題

Ⅲ 今年度の研究概要

①「課題研究」における探究的な学びの検討・実施状況について

旧学習指導要領では、「課題研究」の指導項目(1)調査,研究,実験, (2)作品制作,(3)産業現場等における実習,(4)職業資格のうち、やや(4) に偏重しがちな傾向が見られるのが課題の一つであった。

現在の学習指導要領では、同科目が「総合的な探究の時間」の代替科目であることを踏まえ、これまで(4)に偏重しがちだった取扱いについて探究する学習活動を取り入れ、職業資格を取得するための学習活動に偏らないようにすることが大切であると明確に方向性を示している。

これを受けて本研究部会では、新しい「課題研究」の実施を翌年に控え、どのように探究的な学びを取り入れて行くか各校での取り組み状況の実践発表をもとに研究協議を行った。

「課題研究」の現状把握に関する実践発表事例

		製類研究					探究活動をしている他科目								
			100000	100 英海河		ビジネス第	揮記系	1年	1年	2年	2年	2年	3年	3年	3年
講座	セールスプロモ ーション演習	企業戦略 (マーケ ティング) 研究	際的な分野 の研究	時事問題 研究	(秘書·労 (上級簿		キャリア デザイン		商品開発と 液道	東京の経済	ビジネス モデル研 究	総合実践	プレゼンテ ーション		
	口頭	0	0	0	0			0	0	0	0	0	0	0	0
発表等	ポスター			6.11				133		C 50		0			Total I
4	論文等	0	0	0	0	Δ	Δ	0	0	0	0	0	0	0	0
資格 取得		発表	原稿・資料のような数	A出物または指)	と課題に基づ	C ν#− F		The same	Name of	を表単稿・資料	のような提出	物または指定課	祖に基づくレコ	K	101833
外部 連挑		0	0			0			0		0	0	0	0	
探究	個人	0	S. OLL SU	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
活動	グループ	0	0		17 700	1000	les first						0	0	0
2010	飲員			0		0	0	0	0	- 0	0		0		0
課題 設定	生徒		- 47.34		0							0	0		0
	企業等	0	0											0	-02
きの 社		動戦作品にて 応募	フィールドワーク アンケート調査											約7平子園	01)-01-

②新たな中学生向けの広報の在り方

都立商業高校は平成30年度にビジネス科への学科改変を実施したが、その後、一次・分割前期募集において全体では一度も定員を充足できていない。このことから新学習指導要領の導入後の新たな商業教育について、中学生にどのように広報すべきかについても研究協議を実施した。



111101222111101								
団体名		東京都商業教育研究会						
	所属	都立大田桜台高等学校						
代表者	職 氏名	校長 石山 智典						
	連絡先	03-6303-7980						
	所属	都立第一商業高等学校						
事務局	職 氏名	校長 平野 篤士						
	連絡先	03-3463-2606						
団体ホームページ		URL	二次元コード					
		_	_					

研究主題 コロナ後を見据えた、新たな特別活動の進め方

I 団体の概要及び研究テーマ

A. 団体の概要

特別活動の特質である「望ましい集団活動」の在り方を問い直し、生徒が困難や苦難を乗り越え、仲間とともに生きる目標と、生きる喜びをもつ「強い心」を育むため、特別活動の在り方を研究する。月例会や研究協議会を通して、都立高等学校教師の特別指導における指導力向上を目指し、ホームルーム経営力、生徒理解力の向上を図ることを内容とする。

B. 研究テーマ

「コロナ後を見据えた、新たな特別活動の進め方」

本研究会においては、高等学校学習指導要領の特別活動について研究を重ねてきた。特別活動で育成を目指す資質・能力である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」という三つの視点を手掛かりとして、これらを有機的に関連付け、明確に区別することなく育成する資質・能力に関わるものとして捉えることが重要だとされている。新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりつつあり、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等が全て再開されつつある。中学校時代をコロナ禍で過ごしてきた生徒たちが入学していることも念頭に置き、新たな特別活動の進め方を研究していくことをテーマとした。

Ⅱ 研究テーマに沿って重点的に取り組んだ内容

学習指導要領に定められた特別活動のホームルーム活動・生徒会活動・学校行事の3領域を中心に、都立高等学校の実践的な取組を基に、事例研究を行う。生徒との関わり方や指導方法について、基調提案・実践報告・講演等を通して、教師同士が学び合う場を設ける。

今年度は対面形式にて実施した。発表者による実践報告を基にして、参加者による情報共有や、所属校での日頃の指導に活かせる方法について研究協議を重点的に取り組んだ。特に、多くの初任者に参加いただき、「担任になったらどのように対応するか」、「行事の担当者として分掌や各ホームルームとどのように関わるか」等の意見交換を行った。





【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校特別活動研究会】

Ⅲ研究の内容、成果、課題

A. 研究の内容

- ①第1回研究協議会(7月11日 東京都立石神井高等学校) 基調提案 「ホームルーム担任の仕事 1日1年」 実践報告 「生徒とともに歩んだホームルーム担任」
- ②第2回研究協議会(10月 20日 東京都立石神井高等学校) 実践報告 「生徒とともに成長した同期との5年間 体育祭編」 実践報告 「生徒とともに成長した同期との5年間 修学旅行編」
- ③東京都教職員研修センターとの連携研修(10月 19日) (令和5年度専門性向上研修「5312_特別活動【I】」) テーマ 「特別活動の基礎・基本―実践発表から学ぶ、 三つの視点を踏まえた資質・能力の育み方―」 内容 「ICT 機器やBYOD・BYAD を利用したキャリア・パスポートの 活用を通して」

B. 成果

第1回は25名、第2回は37名の教員等の参加があり、特別活動の実践を基に、他校の事例や工夫を学ぶことができた。また発表後は、参加者同士の有意義な研究協議となった。

C. 課題

オンライン形式の開催慣れのせいか、対面開催であると参加者が少ない。今後さらなる参加者の募集の工夫が必要である。また、新たな特別活動の進め方をさらに研究・協議する必要がある。

Ⅳ 今後の活動予定

- ○第3回研究協議会(1月 12日 東京都立石神井高等学校) 第 38 回東京都高等学校特別活動研究協議大会 研究報告 「テーマ 未定」
- ○3月研究協議会(3月上旬予定、東京都立石神井高等学校) 次年度にホームルーム担任となる教員向けの研究会を開催する 予定である。





団体名		東京都高等学校特別活動研究会				
	所属	東京都立石神井高等学校				
代表者	職 氏名	校長 藤野 泰良	泰郎			
	連絡先	03-3929-0831				
	所属	東京都立武蔵高等学校				
事務局	職 氏名	主幹教諭 峯岸 久枝				
	連絡先	0 4 2 2 - 5 1 - 4 5 5 4				
団体ホームページ		URL	二次元コード			
		https://tokkatsu.com/				

研究主題 国際教育、開発教育、国際理解教育、多文化共生教育

第 43 回高校生英語弁論·第 23 回高校生日本語弁論大会 東京都予選

令和5年8月に愛媛県松山市にて行われた全国国際教育研究協議会主催の第43回高校生英語弁論大会および第23回高校生日本語弁論全国大会の東京都予選を、令和5年6月3日(土)に、東京都立練馬工科高等学校けやきホールにて開催しました。熱気溢れる会場では英語弁論に21名、日本語弁論に4名の参加者が、それぞれの気持ちを込めた発表を行いました。発表後、審査員からは発表者の努力と熱意を称えるとともに、「今日一人一人が発表した内容は、皆、外の世界への働きかけを意識した素晴らしい内容だった。今日話した内容をスピーチの為だけに終わらせず、今後も忘れず、くじけず、ずっと心において行動してほしい」と講評をいただきました。

本予選で優勝(日本語弁論は準優勝も含む)した生徒は関東大会に進み、更に全国大会への出場を勝ち取りました。全国大会は、本年度は台風接近により急遽オンライン開催となり、当日ライブでのオンライン発表となりました。英語弁論大会では都立小石川中等教育学校の生徒が外務大臣賞を、日本語弁論大会では東海大附属高輪台高等学校の生徒が国際交流基金理事長賞を受賞しました。来年度も引き続き関係者各位の御指導、御協力をお願い申し上げます。

国際理及び国際協力に関する研究発表会

令和5年12月9日(土)に拓殖大学文京キャンパスにて「国際理解・国際協力に関する研究発表会」が行われました。参加した教員は国公私立とも、多くの教科の方がおり、それぞれの視点から意見を出し合い、各学校における国際理解や国際教育の充実を図るべく活動を展開しています。各参加校の発表後は、拓殖大学の学生からも発表があり、高校生や大学生等を交えた国際理解・国際協力のための交流会も実施しました。拓殖大学国際学部長、(株)国際開発ジャーナル社の企画担当、国際協力機構(JICA)東京センターの課長、立命館アジア太平洋大学サステイナビリティ観光学部長、同アジア太平洋学部の教授に審査員をお願いし、本格的な研究発表会として運営できたことにより、各参加校のグローバルな視点での先進的活動や継続的な取組の発表が多く、非常に内容の濃い発表会になりました。

引き続き、本研究協議会の活動を通じて、国際理解・国際協力・開発教育について発信し、教育効果を向上させるように努めていきます。本研究協議会は発足以来、国際協力機構(JICA)や日本国際協力センター(JICE)などと連携を図りながら、国際協力、国際貢献を志すグローバル人材の育成に力を入れています。また、東京都教職員研修センターからの御指導及び御支援にも深く感謝申し上げます。今後とも本研究協議会に対して、御理解と御支援を賜りますよう、よろしくお願いします。

外国につながる高校生のための進路ガイダンスと多文化交流会

外国につながる生徒へのさまざまな支援は、学校だけでなく、外国人支援の団体(国際交流センター、NGO・NPOなど)でも行われてきました。本研究協議会でも平成28(2016)年度以来、年2~3回、外国につながる高校生のための進路ガイダンスや多文化交流会を実施してきました。今年度は7月16日(日)に桜美林大学、12月10日(日)に東洋大学の多大なる御協力の下、対面で実施することができました。外国人への支援団体や法律の専門家など外部の団体(多文化共生教育ネットワーク東京TEAM-Net など)と企画の段階から連携し、東京都教育委員会人権教育研究奨励費グループとも連携しています。これまで外国につながりのある中学生や高校生の進路選択や学校への定着に向けた取組を行うことができるのも、各校における御理解と御支援によるところが大きく、都立高校卒業生や大学、専門学校、企業、NGO、地域のNPOと、各方面の方々の御協力には深く感謝申し上げます。参加生徒は進学や就職の際に影響する在留資格の情報、上級学校の外国につながりのある生徒を対象とする特別な入学枠等の情報、先輩の体験談などを得ることができました。一方、漢字が難しい、生徒の学習経験の実態や能力にあっている教材が少ない、日本の学校文化が分かりにくい、「日本人に合わせる」努力や姿勢を随時求められる、論理的な思考力や言語能力を育成する学習環境が乏しい、居場所を見つけにくい、母語話者同士で集まってしまうなどの課題も浮かび上がってきました。

団体名		東京都国際教育研究協議会			
	所属	東京都立農産高等学校			
代表者	職 氏名	校長 江森 忍			
	連絡先	03-3602-2865			
	所属	東京都立六郷工科高等学校			
事務局	職 氏名	主幹教諭 竹山 哲司			
	連絡先	03-3737-6565			
団体ホ	ニームページ	URL http://jafie.jp/tokyo/			

研究主題 「生徒が主体的に行う社会に関わる活動」について

I 団体の概要

本研究会は、平成23年度に教科・科目「奉仕」における授業実践と、「社会の一員の自覚」と「規範意識と社会貢献意識の醸成」等を目的に発足し、11年目を迎えた。

これまで「ボランティア教育」に関心をもつ教育者や、ボランティア 関係団体の方々が集まる研究会として活動している。

令和4年に開催された第46回全国高等学校総合文化祭東京大会「ボランティア部門」の委員として研究会が関わり、その他にも、教員や外部中間支援組織を対象とした研修会も実施している。

Ⅱ 研究の目的

研究主題「生徒が主体的に行う社会に関わる活動」について、コロナ禍で、ボランティア活動、社会貢献活動の在り方も変わりつつあるという報告を、学校との関わりがある中間支援組織等より聞く場面があった。

また、新型コロナウイルス感染症の扱いが変わり、社会と関わる活動等を再開している学校もある一方で、これまでの連携先との関係をつかめず、活動の再開がなかなか見込めないという学校もあるという声を受け、ボランティア活動等の社会とかかわる活動を推進する教員同士や、都内ボランティアセンター職員との情報交換会を企画・運営することと、防災教育に関する研修会を企画・運営し、教員のみならず中間支援組織からも主題に即した情報提供をもらいつつ、生徒の主体性を育む指導の在り方について、研究するものとする。

Ⅲ 研究の方法

- ①教員の他に、社会福祉協議会等の中間支援組織、社会貢献活動 にかかわりのあるNPO団体等に声かけを行い、本研究会の研 究協議会(月例会)等に関わってもらう。
- ②定期的な研究協議会(月例会)を対面の他に、オンラインでの開催も視野に入れ、ハイブリッド形式で実施する。
- ③東京ボランティアレガシーネットワーク(以下、VLN)(東京 都生活文化スポーツ局都民生活部、東京都つながり創生財団) との連携を深め、本研究会の研修内容等を発信していく。
- ④教員を対象とした研修会(意見交換会)を計画し、教員のみならず、中間支援組織とのつながりをもてる機会を設定し、ねらいに沿った研修内容を推進していく。
- ⑤研究主題に沿った内容を定期的に進めていく。

IV 研究の内容

- ①コロナ過で生まれた新たな社会に関わる活動を探る。
- ②教員、中間支援組織を対象とした研修会の中でヒアリングを行う。
- ③社会貢献活動による生徒への効果(変容等)をみとる。
- ④コロナ後を見据えた新たな社会に関わる活動を探る。
- ⑤防災教育に関する研修会を行い、コロナ前とコロナ後の変化を 講師から学ぶ。

【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都奉仕・ボランティア教育研究会】

V 実践事例(研修会)

○8月21日(月) 実施

「ボランティア活動」に関する情報交換会

対 象:教員、中間支援組織等

参加者: 42名

都立・私立高等学校の先生や、社会福祉協議会・ボランティアセンターなどの中間支援組織、行政職員もご参加いただいた。

高等学校の視点でのボランティアセンターや地域との連携の事例、ボランティアセンターの視点での学校と地域を結びつける事例発表、中間支援組織からの情報提供、意見交換など多岐にわたる会となった。

○12月7日(木) 実施

「防災教育」に関する研修会(講師:齋藤幸男氏)

対 象:教員、中間支援組織等

参加者:32名(オンライン参加者含む)

①災害(東日本大震災)をとおして感じた高校生とボランティア活動

②私が「防災という教育」にかける思いについて講演を頂いた。





TVACニュースより引用(東京ボランティア・市民活動センター)

VI 研究の成果と課題

<成果>

- ・ボランティア活動等の特別活動を行うにあたり、教員、中間支援組織ともにつながりを求める需要が高いことが分かった。研究会として、教員同士や中間支援機関とつなぐ機会を継続して設定するよう推進していく。
- ・ハイブリット形式で月例会を実施したことや、VLNのサイト へ本研究会の活動紹介を掲載したことにより、他の団体や個人に 研究会を知ってもらう機会を得ることができたことは大きな成果 であると考えている。

<課題>

・生徒が主体的に行う社会に関わる活動を推進するためには、指 導者側の理念やノウハウが必要である。理念やノウハウを知るた めには、その分野の専門家から学ぶことも必要不可欠である。そ のような機会を月例会等の中で位置づけるよう工夫していく。

団体名		東京都奉仕・ボランティア教育研究会				
	所属	東京都立田無高等学校				
代表者	職 氏名	校長 藤田 豊				
	連絡先	042-463-8511				
	所属	東京都立赤羽北桜高等学校				
事務局	職 氏名	主幹教諭 正木 成昭				
	連絡先	03-5948-4390				
		URL	二次元コード			
団体ホームページ		http://www.houshibora.com/				

研究主題 学習指導要領における性に関する指導

~副主題:指導内容の検討と実践~

I 団体の概要

昭和50年に、高等学校生徒の性教育の在り方、進め方に関する実践的な研究及び生徒の健全育成に関する研究を行うことを目的として設立された研究会である。保健体育科教員や養護教諭だけでなく、多くの教科の教員も所属し、多面的に研究を行っている。

Ⅱ 研究の目的

令和4年度より完全実施された学習指導要領を踏まえ、教科・科目、特別活動及び総合的な探究の時間において、性に関する指導を行う上での指導内容の検討及び実践を行う。

Ⅲ 研究の内容

目的を達成するために以下の項目について研究を行う。

- ・研究協議会の開催(調査研究・情報収集・実践事例研究)
- ・公開授業の開催
- ・講演会及び研修会の実施(最新の知見の習得・指導事例の検討・普及 啓発)
- ・アンケート調査の実施

また、研究結果等を積極的に公開し、普及啓発に努めている。

- ・研究会会誌の発行(活動内容の総括・紀要の発行)
- ・ホームページの公開 (https://www.tokyokouseiken.com/)

Ⅳ 取組と活動状況

- 1 総会…活動方針の決定、予定の確認 5/20 (小川高校)
- 2 研究協議会…情報収集と研究協議

5/20 (小川高校) 6/24 (稔ヶ丘高校)

7/22 (東高校) 10/14 (稔ヶ丘高校)

11/25 (小川高校) 1/13 (東高校)

3/23 (小川高校)

- 3 夏季研究協議会…講演および実践発表と研究協議 8/21 (国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 4 第 51 回全国性教育研究大会熊本大会…講演および実践発表 8 / 4、5 (熊本市民会館)
- 5 東京都性教育研究会 40 周年記念実践報告会 1 2 / 2 (日本教育会館)
- 6 公開授業…多様な心の性に関する指導 12/21 (東高校)
- 7 講演会…外部講師による講演 2/24

V 成果と課題

学習指導要領の趣旨を踏まえ、東京都教育委員会から平成31年3月に改訂された「性教育の手引」に基づき、人権意識の向上や生徒の健康に関する意志決定及び行動選択についての指導方法の検討や公開授業を開催している。定期的に開催している研究協議会には、他校種の教員も集まり、活発に協議を実施している。

また、熊本県で開催された全国性教育研究大会では、高等学校分 科会での発表を行うことができた。

令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」には、「第12章性に関する課題」という章があり、「性犯罪・性暴力対策の強化」や「生命(いのち)の安全教育」、「性的マイノリティに関する理解」などが課題として挙げられており、現代社会における性の課題が多岐にわたることが分かる。これらは SNS 等の普及による新たな問題への対策にとどまらず、人権や尊厳に関するより一層の理解が必要不可欠であることを示している。

性に関する授業実践や、講演は、スポットで実施されることが多い。今年度の全国性教育研究大会では、「多様な課題を受け止め、豊かに生き抜く力を育む性教育は、人生の『羅針盤』となる」と明記されている。各学校において、どのように発達の段階を踏まえ、学校全体で共通理解を図り、集団指導と個別指導の区別をした上で計画的に実施するのか。指導計画の作成や組織的な対応の具体例のモデルとなるものが重要になると考えられる。

性教育の重要性は、社会全体に浸透しつつあると思われる。実践 事例を積み上げつつ、いかに組織的に取り組むのかが今後の課題で ある。

VI 今年度の研究協議の主な内容

- ・性的マイノリティの生徒と生きづらさ(報道資料)
- 「ボディポジティブ」の概念を用いた「食事と健康」の授業
- 「思春期の心とからだの健康について」(プライベートゾーン、プライベートパーツ、コミュニケーション、DV チェッカー)
- ・「経験から見つめた学びの連続性等」の講演
- ・生命(いのち)の安全教育の実践に向けて確認しておきたい「包括 的性教育」
- ・「射精責任」(著・ガブリエル・ブレア 訳・村井理子 太田出版)を活用した最新の知見の獲得
- ・教科「政治経済」における外部講師を活用した性的同意に関する授業実践
- ・教科「保健」における水の実験を活用した性感染症とその予防に関する授業実践

<令和5年度連絡先> 団体名 東京都高等学校性教育研究会 所属 東京都立小川高等学校 職 氏名 校長 山田 智美 代表者 連絡先 042 - 796 - 9301所属 東京都立東高等学校 職 氏名 事務局 主任教諭 横 史明 連絡先 03 - 3644 - 7176二次元コード URL 団体ホームページ https://www.tokvokouseike

n. com/

令和5年度研究テーマ:教科の特質を生かした「探究的な学び」の実現

I 団体の概要

- ■高等学校におけるアクティブ・ラーニング型 授業の実践的な研修を通して、教員の授業力 向上を図るとともに生徒への還元を目指す。
- ■講演会の開催や研究授業の実施により、理論 と実践の往環を図る。
- ■評価部会等の専門部会を開催し、理論面での研究を深める。
- ■平成27年に東京都教育委員会の認定する研究推進団体として発足した。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践および理論の研究を推進し、外部講師を招いた講演会・研究協議会や研究授業を通じて、アクティブ・ラーニングにおける指導技術を研究してきた。

■より専門的な研究部会として、評価部会を令和2年度に設置し、研究を深めた。

Ⅱ 研究の主な内容(今年度)

- ■教科の特質を生かした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る教科指導の在り方
- ■「探究的な学び」の形成的評価の充実
- ■思考力・判断力・表現力等を育むカリ キュラムマネジメントの実現

研究協議の様子(第1回研究授業・協議会都立戸山高等学校)



【令和5年度東京都教育委員会研究推進団体 東京都高等学校アクティブ・ラーニング型授業研究会】

Ⅲ 今年度の活動

■第1回講演会 (7月1日)

会場校:都立晴海総合高等学校

講演会テーマ

「『探究的な学び』をどのように設計するか

- キャリア形成やトランジションの視点

を踏まえて - 」

講師 学校法人桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授 溝上 慎一 先生

■第2回講演会 (12月23日)

会場校:都立王子総合高等学校

講演会テーマ

「指導と評価の一体化につながる

形成的評価の充実 |

講師

京都大学 大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 先生

Ⅳ 研究授業

- ■第1回研究授業・研究協議会(英語) 都立戸山高等学校 池岡主任教諭 11月10日 英語コミュニケーションⅡ
- ■第2回研究授業・研究協議会(物理) 都立神代高等学校 荒川教諭 1月22日 物理基礎
- ■第1回評価部会(1月20日)
 - 一人1台の学習者用端末を活用した教育 データの利活用と学習評価

<令和5年度連絡先>						
団体名		東京都高等学校アクティブ・ラーニング型				
		授業研究会				
	所属	都立杉並総合高等学校				
代表者	職 氏名					
	連絡先	03-3303-1003				
	所属	都立晴海総合高等学校				
事務局	職 氏名	主任教諭 田仲 正弥				
	連絡先	03-3531-5021				
団体ホームページ		URL	二次元コード			
		https://www.tokyo-al.com/				